

# 三笠ジオパーク構想～大地の遺産と文明との共生～

Mikasa Coalfield Geopark Plan: Relationship between the history and geological background of Mikasa

栗原 憲一<sup>1</sup>・新居 忠浩<sup>2</sup><sup>1</sup> 三笠市立博物館, 〒068-2111 北海道三笠市幾春別錦町 1-212-1, Email) kurihara582@city.mikasa.hokkaido.jp<sup>2</sup> 三笠市役所企画振興課政策推進係, 〒068-2192 北海道三笠市幸町 2 番地, Email) nii569@city.mikasa.hokkaido.jp

2013 年度の日本ジオパークネットワーク加盟を目指し、今年度より活動を行っています！

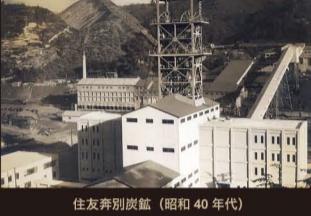
## はじめに

北海道中央部に位置する三笠市は、札幌市や千歳市など主要都市から車で 1 時間圏内に位置しており、自然や資源や豊富な場所です。

現在の人口は約 1 万人ですが、かつては炭鉱街として栄え、昭和 30 年代には 6 万人を超えていました。



石炭を運ぶ荷馬車と子供たち（昭和 40 年代）



住友別炭鉱（昭和 40 年代）

三笠市は、明治元年に約 5,000 万年前の古第三系石狩層群から良質な石炭層が発見されたことを皮切りに、まちが開拓された歴史的背景があります。

また、約 1 億年前の白亜系蝦夷層群からは、アンモナイトを中心とする保存良好な化石が豊富に産出することから、明治後半以降は白亜紀の生物進化や古環境などに関する研究拠点地域にもなっています。

現在の旧住友別炭鉱の様子  
(立坑櫓)白亜紀に大繁栄したアンモナイト類  
(三笠市立博物館)

## 三笠ジオパーク構想のエリア

現在、考えている三笠ジオパーク構想のエリアは三笠市の行政区域全体です。面積は 302.64km<sup>2</sup>、その内、森林面積は 258.17km<sup>2</sup> であり、エリアの約 85%は森林です。



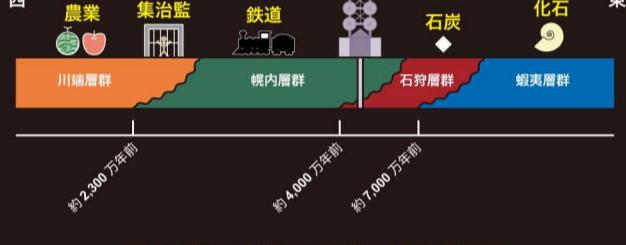
## 主題テーマ

三笠ジオパーク構想のテーマは「大地の遺産と文明との共生」です。

三笠市には、明治元年の石炭の発見以来、現在でも空知集治監（現在の刑務所）や炭鉱構造など多くの石炭に関係する資料や建造物、そして文化が残されています。

そこで、これらの石炭にまつわるストーリーを中心として展開し、まちの地質学的特徴や歴史との関わりについて語ることを考えています。

### 三笠市の地質と歴史、文化、産業の特徴



三笠市に分布する地質構造と三笠市の歴史や産業との関係概略図  
三笠市は、東側により古い地層、西側により新しい地層が分布しています。

## 三笠に分布する地層の特徴

三笠市には、約 1 億年前の中生代白亜紀の地層から現在堆積中のものまで様々な時代の地層が分布しています。おおまかには、市内の東側にはより古い地層、西側により新しい地層が露出しています。

これらの地層からは多種多様な化石が産出しており、その化石を使用して、生物の古生態や進化、地層が堆積した時代の古環境などが明らかにされています。

また、三笠市の石炭は、約 5,000 万年前の地層である石狩層群から産出します。



三笠市に分布する地層と主に産出する化石

## 今年度整備予定のジオサイト

三笠市立博物館の裏手には、炭鉱施設の遺構と石炭層の露頭の両方を見ることができる野外博物館があり、フリーツーリスト向けのジオサイトとなっています。今年度は、このコースの説明表示板を充実させ、ジオサイトの魅力を高める予定です。



## 三笠の地質学的特徴とジオパークとしての要素

### 産業遺産



炭鉱の遺構

明治元年の石炭発見により開坑された「幌内炭鉱」の跡地がある幌内地区には、北海道最古の坑道の坑口や変電所のほか、建造物の基礎部分などが現存しています。

幾春別地区の象徴的建造物「旧住友別炭鉱立坑櫓」は、昭和 46 年まで稼働した現存する国内最大の立坑櫓であり、かつては東洋一と呼ばれていました。また、櫓の他に施設施設や変電施設等も残されており、システム産業として成り立っていた炭鉱の様子も知ることができます。

### 文化

北海盆踊り



北海盆踊りは、盆踊りで使用される日本で有名な唄の 1 つです。その発祥は、昭和の戦前に炭鉱が栄えた市内幾春別地区であると言われ、炭鉱という産業の下で生活した人々が創った文化であると言えます。

当市では、北海盆踊りの歌唱力日本一を競う全国大会を毎年 7 月に開催し、その文化の継承を図っています。

さらに 8 月中旬には、まちの中心部で北海盆踊りに合わせて盛大に踊る「北海盆踊り」と呼ばれる祭りを行っており、これらの唄や祭りなどの文化と炭鉱遺構は北海道遺産として登録されています。

### 観光



幌内鉄道は、明治 15 年に三笠市幌内から小樽市手宮までの間に敷かれた北海道で初めての鉄道です。幌内炭鉱で採掘された石炭を本州方面へ運搬するために敷設されました。しかし、この鉄道は昭和 62 年の国鉄の民営化に伴い廃線となりました。

三笠鉄道村にある三笠鉄道記念館には、幌内鉄道の歴史資料などが保存・展示されています。

また、歴史ある鉄道跡地には、それを活用したトロッコ鉄道に乗車することができます。毎年多くの観光客が三笠鉄道村を訪れます。

### 地質

三笠市の地質図



### 地層

石炭層、砂岩層、泥岩層



約 1 億年前に堆積した白亜系蝦夷層群は海の中で堆積した地層であり、当時生きていたアンモナイトや大型海棲爬虫類（モササウルスやクビナガリュウ）の保存良好な化石が豊富に産出します。

約 5,000 万年前に堆積した古第三系石狩層群は河川で堆積した地層であり、良質な石炭が産出します。

当市の炭鉱は全てこの石狩層群から産出した石炭を採掘しており、砂岩層は現在も稼働する露天掘り炭鉱となっています。

### 教育

地域科



平成 17 年度より、三笠市では小中一貫教育を実施しています。この取り組みの中心には、三笠の自然科学に対する学習を行う「地域科」という科目があり、子ども達の郷土愛の育成を行っています。

この授業では、小林和三三笠市長自らが「私たちの三笠」と題して過去から現在、そして将来の三笠をテーマに教壇に立ったり、博物館の学芸員が、市内で産出する特徴的な化石や地層をテーマに講義や実地学習を行ななど、地元の人材と素材を活かして地元の子どもを育てる取り組みを行っています。

### 収集・保全

三笠市立博物館



三笠市立博物館は、市内の自然史、歴史、産業史を保存するために、昭和 54 年に設置された総合博物館です。

自然誌では、白亜紀における様々な化石が約 1,000 点展示されており、別名「化石の博物館」と呼ばれています。特に、アンモナイト化石は、当市を始めとする北海道産を中心に約 600 点も展示されており、国内最大のコレクションとして知られています。また、明治の開拓期に設置された空知集治監（監獄）や、炭鉱に関する資料も保存され、郷土史から北海道の開拓の歴史の一端を知ることができます。